

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100299
法人名	医療法人社団初心会
事業所名	グループホーム みたき ユニット名 1F 櫛
所在地	仙台市青葉区八幡7丁目14-17
自己評価作成日	平成 28年 9月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成28 年 10 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と職員が一緒に物事に取り組み、時にはいろいろなことを教えていただいたりすることもあり、一方的に介護を受ける側、提供する側とならないように共同の生活を送る者同士として支援を行っていきたくと考えています。イベントなどを行い地域の一員として開かれた施設を目指しご家族のみならず、どなたがいつ来ても安心できる施設を目指していきます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道48号線から少し坂道を上る位置に在ることから、降雪に備え開設当初に除雪機を購入し、率先して近所の除雪も行っている。夏祭りに参加してくれる浴衣姿の近所の子も達と一緒に楽しむ等、日常的な交流もあり開設2年目ながら地域密着型の事業所としての役割を日々実践している。平成17年に同法人の杜のホスピタル・あおばの開設時に、保育所(定員42名)を同時に運営している。職員は安心して育休・育児に専念出来るので、離職率が少ない。また、職場環境が整備されているので仕事のやりがいを感じつつ、入居者がゆったりとした日常を過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームみたき )「ユニット名 1F 樺 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分がして、されて納得できる医療福祉サービスの提供」の法人理念の実施を目標とし、ユニット目標の入居者様の声に耳を傾け、笑顔の絶えないホームを目指しています	職員と話し合っ集約したユニット毎の理念を掲げ、各ユニットに貼りだし共有している。入居者が不安げな様子の際に、寄り添って傾聴し、安心感をもって快適な生活が送れるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや、花火大会、餅つきなどの近隣の方を招いたイベントでは、楽しみに参加される姿がみられるようになってきました	地域の防災訓練や廃品回収等に参加している。庭に咲くバラの花を届けてもらったり、散歩をする時はお互いに挨拶を交わし日常的に交流をしている。ホーム行事に参加する近所の方が、だんだん増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉施設がどんなものなのか、地域交流のイベントを開催したり、外に出ることで認知症の方への理解は進んでいるものと期待します		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で意見を参考にサービスの向上を図っています	入居者・家族・町内会長・地域包括職員とホームから3名で構成され、定期的開催している。インシデント・アクシデント報告から、入居間もない方の転倒リスクに注意を払うなど、情報を共有し運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の研修会に参加し、情報を得ています	市主催の研修に参加し、介護保険改正についての説明や、健康福祉事業団の病理学・ターミナル・口腔ケア等の研修に参加している。市の窓口に行く機会は少ない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間の施錠は行っていますがそれ以外の施錠は行っていません。法人自体が身体拘束をしないことを実践しているので、今後も研修会や拘束をしないケアについて理解を深めていきたいとおもいます	研修の中でも身体拘束の具体的な内容を学び、身体拘束をすること自体がホームには存在しないことを確認合っている。一人ひとりに起こり得るリスクの原因を探り、根拠に基づいた対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待となるのか、普段のケアについても話す機会を設けています。不適切なケアが無いかどうか今後も取り組んでいきます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については研修を受けています。必要であれば事業所等と話し合い対応を行っていきます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明を行っていますが、ご家族へは積極的に声をかけさせていただき、不安や疑問点の解消につなげています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との話の中ででたことや、入居者様の要望を取り入れ、ホームでの生活に取組んでいます	面会時に要望を聞く事が多い。本人が望み、自宅に連れて来たいが術がないという家族の要望で、送迎の支援をして感謝されている。同法人の様々なイベントに参加することは、入居者の楽しみ事になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	こまめに職員とは話し合う機会を設け、提案があれば検討し、改善につなげています	ミーティング・個人面談の他に、年2回「職員考課表」に基づき、自分の目標の達成具合、反省文で意見や提案を述べる機会を設けている。提案をし易い職場環境であり、物品管理方法等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対しては声をかけ、認めることで仕事への向上心を持ってもらえるように努めます		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加の支援と、普段から認知症などの対応方法について職員と話し合っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修へ参加することにより横のネットワーク作りを進めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様、一人ひとりとお話をする中で、どんなことが不安なのかどんな要望があるかを聞き出せるように耳を傾けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がどのような事が困っているのか、何を心配に思われているか、声をかけお話をすることで良好な関係を築けるに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのか職員同士で話し合い、情報を共有することで必要とする支援を見極めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から職員が教わることも多くあり、一方的な介護にならない関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とはこまめに会話を交わし、出来るだけ入居者様に関わっていただけるようにしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの関係ができ、入居者様も楽しみにしている関係ができています	大崎八幡神社詣や、かつての自宅周辺を通る時、本人が道案内をしてくれる。入居者が入院中に知り合った方の家族が、退院後も月数回来訪して交流を深めたり、訪問マッサージを引き続き受ける支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立することの無いように職員が間に入ったり、声を掛けゲームを行うなどしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にはいつでも乗れることをお伝えしています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切に、希望や要望を聞きその方にとってよりよい生活を検討しています	本人のバックグラウンドを把握し、それぞれの役割を持って生き活きと過ごせるよう支援している。夕方になるとソワソワする方の、「ソワソワするのはなぜ？」の原因を検討し適切な対応に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントなどを行い生活歴の情報を収集し、スタッフ間で共有できるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察を行い、その日の体調や気分の変化への気づきを大切にしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	こまめに職員と話し合いを行い、ご本人の希望、ご家族の希望もふくめて課題検討を行っています	モニタリング等で、日常の様子を詳細に記録している。夜間のみオムツを使用していた方が、排泄に関するこだわりが見られたのでプランに入れ、夜間誘導の工夫で改善し、本人の安心感につながった事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきをケア記録に残して、次につながられるように努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にその方にとって最良な事は何かを柔軟に支援できていると思います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような事が支援できるかを他の事業所の相談員とも検討し、支援を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診以外にも医療的な相談を行い適切な医療が受けられるように支援を行っています	全ての入居者は、同法人社のホスピタル・あおばの往診を月2回受診している。受診結果は個人毎にファイルしている。内服薬の変更等は、毎月の定期的な手紙に同封して郵送し、家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、訪問看護師と入居者様の状態について情報交換を行い、入居者様にとってよりよい状態となるように、また適切な受診が出来るように支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者とご家族とも連携を密にとり退院にむけての受け入れ態勢を取っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時々々の状態をご家族と話し合い、ご本人の希望も取り入れながら対応を行っています	入居時に看取り支援を実施していることを文書で示し、家族に説明している。外部・内部研修で学んだり、看護師2名を職員として配置していることが、職員の安心感になっている。2名の看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について意見交換を行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し、その際は近隣の方にも声を掛けています	夜間想定避難訓練を年2回実施している。青葉分署から、先ず身の安全を図り避難するよう指導があった。2階ユニットに避難ハッチ式救助袋を設置している。近所の方々の協力要請を検討中であり期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の尊厳を尊重しケアを行っています	入居者から「お父さん」と呼びかけられている方がおり、本人も穏やかな表情で受け入れている。職員は家族的であるのと、馴れ馴れしさの違いをわきまえた言葉がけをし、本人の尊厳と権利を守る支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望を取り入れるように働きかけを行っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様の生活のペースを大事にしてホームでの生活を送っていただくように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望も取り入れてネイルケアを行ったり、化粧品などの管理なども行い支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成の時何が食べたいかをお聞きしたり、料理の盛り付けや下膳、食器を拭いたりするのを手伝って頂いています	出来る範囲で食事前後の準備を一緒にしている。あらかじめ決めていたメニューを、栗ご飯を食べたいということになり急に変更することもある。誕生日には、本人が希望するお寿司等のメニューを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、食事の量や水分の量を記録に残し支援のための材料にしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い、介助が必要な方は介助を行い、口腔内の清潔保持を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせて誘導を行い、トイレでの排泄を目指しています	管理者は「日本コンチネンス協会」認定の排泄ケア専門員の資格を有している。失禁や排泄困難の対応の専門的知識を活かしたケアを実践している。筋肉の強張りも考慮して排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージや、腸内環境を整えるなどの取り組みを行い、排便を促すようにしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただけるように入浴剤などを入れて対応しています。入浴の時間は出来るだけ入居者様の意に沿えるようにしています	週2回の入浴支援であるが、季節や本人の体調に合わせてシャワー・清拭・足湯・温タオルでも支援している。入浴剤を種々変えて楽しんでいる。拒む方は、本人の行動のタイミングに合わせて入浴の声掛けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、休憩や睡眠をとっていただけるようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の内容には常に確認できるようにし、また変化があった場合には用途や副作用についても説明を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意とすることや、出来る事を一緒にしてもらって生活の張り合いを持っていただけるように支援を行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様より話題に出たところや、しばらく出かけていないようなところへも企画をたてて外出しています	コンビニでおやつ、他に数人で洋服を買いに出かけている。季節の外出は、車酔いする方にも酔わない工夫をして一緒に出掛けている。法人で毎月開催されるジャズミッドナイトライブでは、お酒を嗜むのを楽しみにしている方もいる。。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけたりしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙の取次ぎなどを行っています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事や話題をとり入れ、季節感を大切に、気温や湿度にも気をつけています	小高い場所にあるホームのリビングからは、濃淡の緑が広がり眺めが良い。日当たりも良好で温かく包まれ、居眠りしたくなるような居心地である。訪問した当日1階ユニットでお茶会があり、男性職員が袴姿の和装で抹茶をふるまってくれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と一緒に過ごしたり、一人でいる時間など入居者様に合わせた時間を過ごしていただけるように支援を行っています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただいたり、ご本人が過ごし易い環境をつくるように工夫をしています	押入れの扉に、全身が映る姿見が設置されている。入居者は毎朝鏡の前で整容をしている。鏡により不穩になる方はいない。愛用のぬいぐるみを抱いて寝たり、姉妹の遺影に水を供えている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりが出来る事をお手伝いしていただけるように支援を行っています		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100299		
法人名	医療法人社団 初心会		
事業所名	グループホーム みたき ユニット名 2F 番山		
所在地	仙台市青葉区八幡7丁目14-17		
自己評価作成日	平成 28年 9 月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームで生活されている入居者様と一緒にスタッフも毎日新たな発見や体験をし、一方的な介助にならないような生活支援を行っていきたくと考えます。その方が持っている能力を活かし笑顔の絶えないグループホームと一緒に作りあげていると少しずつ実感出来てきました。また、医療面も関係医療機関との連携も密に図られています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年10月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道48号線から少し坂道を上る位置に在ることから、降雪に備え開設当初に除雪機を購入し、率先して近所の除雪も行っている。夏祭りに参加してくれる浴衣姿の近所の子も達と一緒に楽しむ等、日常的な交流もあり開設2年目ながら地域密着型の事業所としての役割を日々実践している。平成17年に同法人の社のホスピタル・あおばの開設時に、保育所(定員42名)を同時に運営している。職員は安心して育休・育児に専念出来るので、離職率が少ない。また、職場環境が整備されているので仕事のやりがいを感じつつ、入居者がゆったりとした日常を過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームみたき )「ユニット名 2F 蕃山 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、ユニットの理念を共有し、実践につなげていると思います	職員と話し合っ集約したユニット毎の理念を掲げ、各ユニットに貼りだし共有している。入居者が不安げな様子の際に、寄り添って傾聴し、安心感をもって快適な生活が送れるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺の散歩や季節のイベントなどを通じて地域の方との交流を図っています	地域の防災訓練や廃品回収等に参加している。庭に咲くバラの花を届けてもらったり、散歩をする時はお互いに挨拶を交わし日常的に交流をしている。ホーム行事に参加する近所の方が、だんだん増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の生活を見ていただいたり、イベントなどに参加していただくことで認知症の方の理解を得られていると思います		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考に今後の運営に活かして行きたいと考えます	入居者・家族・町内会長・地域包括職員とホームから3名で構成され、定期的開催している。インシデント・アクシデント報告から、入居間もない方の転倒リスクに注意を払うなど、情報を共有し運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連携を密にとり、協力関係を築きたいと思えます	市主催の研修に参加し、介護保険改正についての説明や、健康福祉事業団の病理学・ターミナル・口腔ケア等の研修に参加している。市の窓口に行く機会は少ない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践、また研修を行い拘束をしないことをスタッフの共通の意識として取り組んでいます	研修の中でも身体拘束の具体的な内容を学び、身体拘束をすること自体がホームには存在しないことを確認し合っている。一人ひとりに起こり得るリスクの原因を探り、根拠に基づいた対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待になるのかを確認し、不適切なケアにならないよう取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各関係個所と連携を取り、活用をしていきたいと考えます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には説明を行い、普段から声を掛け不安なところや疑問点を確認しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、提案があればホームの運営に反映させ、よりよい環境づくりを目指しています	面会時に要望を聞く事が多い。本人が望み、自宅に連れて来たいが術がないという家族の要望で、送迎の支援をして感謝されている。同法人の様々なイベントに参加することは、入居者の楽しみ事になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングを行い意見を出してもらうとともに、個別に意見の交換を行っています	ミーティング・個人面談の他に、年2回「職員考課表」に基づき、自分の目標の達成具合、反省文で意見や提案を述べる機会を設けている。提案をし易い職場環境であり、物品管理方法等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの業務の実績を認めることでやりがいをつけています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の受講などを進め、技術、知識の向上を図っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加し、他の事業所の取り組みや、横のつながりをつくる機会を設けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり入居者様と向き合う事で困っていることや不安、不満などを聞き出しより良い環境を作れるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的に声を掛けることでご家族様が疑問に思っていることや、不安の解消に繋がるように関係づくりを進めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	観察を行う事で、何が必要なのかの見極めを行っていきます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来る事は積極的に参加していただき、生活を共にする関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族の関係を大切にしながら、協力関係を築けるように努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪ねてこられる関係を大切にしています	大崎八幡神社詣や、かつての自宅周辺を通る時、本人が道案内をしてくれる。入居者が入院中に知り合った方の家族が、退院後も月数回来訪して交流を深めたり、訪問マッサージを引き続き受ける支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりを尊重しつつ、孤立しないようなくんけい作りが出来るように支援を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談は随時受けるようにしています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切に、何が重要なのか把握できるように関係づくりを進めています	本人のバックグラウンドを把握し、それぞれの役割を持って生き活きと過ごせるよう支援している。夕方になるとソワソワする方の、「ソワソワするのはなぜ？」の原因を検討し適切な対応に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントを行ったり、ご本人からお聞きしたりして情報を収集しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の出来る事や挑戦することで今何がどこまで出来るかの状態の把握を行っています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様本人の意向を取り入れ現状に即した介護計画を策定できるように目指しています	モニタリング等で、日常の様子を詳細に記録している。夜間のみオムツを使用していた方が、排泄に関するこだわりが見られたのでプランに入れ、夜間誘導の工夫で改善し、本人の安心感につながった事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを利用し、情報の共有や、新たな気づきを見つけられるように日々観察を行い、介護計画の見直しにつなげています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的な対応ではなく、柔軟な対応が出来るように取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの方や他の相談員との連絡、相談を行い支援の連携を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とこまめに医療相談を行い、医療面での不安を軽減できるように支援を行っています	全ての入居者は、同法人社のホスピタル・あおばの往診を月2回受診している。受診結果は個人毎にファイルしている。内服薬の変更等は、毎月の定期的な手紙に同封して郵送し、家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護職、往診の看護職とも情報の交換、相談を行い適切な看護が受けられるよう支援を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連携を取り入院中の経過や退院へ向けての相談を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の方針をお聞きし、その時の状況に合わせてこまめにご家族と話し合いを行っています	入居時に看取り支援を実施していることを文書で示し、家族に説明している。外部・内部研修で学んだり、看護師2名を職員として配置していることが、職員の安心感になっている。2名の看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、緊急時の対応への訓練を行って、実践力を高めていきたいと思っております		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、安全に避難誘導が出来るようにしていきたいと思っております	夜間想定避難訓練を年2回実施している。青葉分署から、先ず身の安全を図り避難するよう指導があった。2階ユニットに避難ハッチ式救助袋を設置している。近所の方々の協力要請を検討中であり期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の尊厳を尊重しケアにあたるように努めています	入居者から「お父さん」と呼びかけられている方がおり、本人も穏やかな表情で受け入れている。職員は家族的であるのと、馴れ馴れしさの違いをわきまえた言葉がけをし、本人の尊厳と権利を守る支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様お一人お一人要望をお聞きしたりして思いを実現できるように働きかけを行っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活のペースを大切に支援を行っています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネイルケアなどへも取り組んでいます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のメニューやお好みをお聞きし献立作りを行っています	出来る範囲で食事前後の準備を一緒にしている。あらかじめ決めていたメニューを、栗ご飯を食べたいということになり急に変更することもある。誕生日には、本人が希望するお寿司等のメニューを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについてはスタッフで意見交換を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの支援を行い、介助が必要な方には介助を行って口腔内の清潔保持を行っています		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況に合わせた誘導を行い排泄環境を整えています	管理者は「日本コンチネンス協会」認定の排泄ケア専門員の資格を有している。失禁や排泄困難の対応の専門的知識を活かしたケアを実践している。筋肉の強張りも考慮して排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を整えたり、運動を行うなど内服だけに頼らないように取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけご希望に応え、入浴を楽しんでいただけるように支援を行っています	週2回の入浴支援であるが、季節や本人の体調に合わせてシャワー・清拭・足湯・温タオルでも支援している。入浴剤を種々変えて楽しんでいる。拒む方は、本人の行動のタイミングに合わせて入浴の声掛けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣を大切に、その時の体調や希望に添って休める環境を整えるように支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の変化が有る時には随時説明を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の嗜好を理解し、気分転換等が図れるように支援を行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出のイベントを計画し様々な場所へ出かけられるように支援を行っています	コンビニでおやつ、他に数人で洋服を買いに出かけている。季節の外出は、車酔いする方にも酔わない工夫をして一緒に出掛けている。法人で毎月開催されるジャズミッドナイトライブでは、お酒を嗜むのを楽しみにしている方もいる。。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物などへ出かけています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり手紙の取次ぎを行っています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけやイベント、食事の提供により生活感、季節感を取り込んだ生活を送っていただけるように工夫をしています	小高い場所にあるホームのリビングからは、濃淡の緑が広がり眺めが良い。日当たりも良好で温かく包まれ、居眠りしたくなるような居心地である。訪問した当日1階ユニットでお茶会があり、男性職員が袴姿の和装で抹茶をふるまってくれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様の状況を把握し人間関係づくりの支援や思い思いに過ごせる空間づくりが出来るように努めています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が過ごし易い環境を作れるように工夫を行っていきます	押入れの扉に、全身が映る姿見が設置されている。入居者は毎朝鏡の前で整容をしている。鏡により不穩になる方はいない。愛用のぬいぐるみを抱いて寝たり、姉妹の遺影に水を供えている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が安心安全に過ごしていただけるように支援を行っていきます		